フィールド（現場）からの風 689

宮田守男

選挙制度の今後を問う

98年前の昭和3年2月20日に第16回衆議院議員総選挙が行われ、日本初となる「普通選挙」が実施された。「所有財産や納税額等に制限されず」に一定の年齢を超えた成人男性全員に選挙権が与えられた。亡き祖父が「税金を納めることは価値のある事だ。選挙できるのだから」と話してくれたのを今でも鮮明に覚えている。女性に選挙権が与えられたのは戦後の昭和21年。今回の選挙も大勢の皆さんが投票行動をしなかった。私達の身近にある貴重な権利を行使する意識を高める手段は無いのかと考えてしまう。

総務省の発表では衆議院の投票率が小選挙区で56・26％、この内期日前投票率が26・10％半数近くの率だ。逆に言えば選挙当日の負担軽減のために期日前投票の充実は選挙費用を激減させるだろう。

選挙公報が届かない条件での投票行為や当日の気象条件により投票時間の変更や候補者掲示板数減の対応など、頑なに厳守してきた選挙制度も大きな改善が可能な事を証明した選挙でもあった。

経済学者の成田悠輔さんは「人口が減少し壊れつつある日本の社会をどう作っていくかという問題にいきつく。これから1年に100万人近く日本人が減っていく中で、これまでと同じように全国津々浦々のコミュニティーとかインフラを維持していくのは無理だと思う。あきらめたりしていくかを論議しないと建設的ではないのかと思う」と話している。これからの社会を展望して県市町村の定例議会で論議が展開される。元プロレスラーのアントニオ猪木さんが引退するときに引用し、知られるようになった詩がある。「この道を行けばどうなるものか　危ぶむなかれ　危ぶめば道はなし　踏み出せばその一足ひとあしが道となり　その一足が道となる　迷わず行けよ　行けばわかる」。私たち人類は「道」という言葉に思い入れがあると感じる。柔道、剣道、弓道、華道、茶道…。住民の代表である議員の皆さんの求める道を論議から見出してはどうだろうか。

2月中旬に会議に出席するため12時台の大糸線で大町に向かう。利用なれした外国の皆さんの乗客の多い事に驚き、大北地域を移動して魅力を求める外国からのお客様にも列車の必要性を痛感する。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

改札営業時間以外に混雑する白馬駅構内。話せる指定席券売機などの増設の必要性を強く感じる